

2019年度(2020年3月期) 第3四半期決算説明資料

IHI

2020年2月6日

株式会社 IHI



目次

1. 2019年度第3四半期 連結決算

連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書).....	4
報告セグメント別内訳.....	5
営業外損益.....	8
特別損益.....	10
連結貸借対照表.....	11
補足資料.....	12

2. 2019年度 連結業績見通し

通期業績見通し.....	16
報告セグメント別内訳.....	17

3. 報告セグメント別の概況

資源・エネルギー・環境.....	21
社会基盤・海洋.....	23
産業システム・汎用機械.....	25
航空・宇宙・防衛.....	27

<参考資料>.....	29
-------------	----

※ 各項目の金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

1. 2019年度第3四半期 連結決算

1. 2019年度第3四半期 連結決算 連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書)

2019年度3Q 売上平均レート(米ドル) 108.95円

(億円)

	'18年度3Q	'19年度3Q	増 減
受 注 高	9,345	8,767	▲ 577
売 上 高	10,472	9,220	▲ 1,251
営 業 利 益	566	272	▲ 294
経 常 利 益	575	86	▲ 489
税金等調整前 四半期純利益	612	93	▲ 519
親会社株主に帰属する 四半期純利益	341	▲ 17	▲ 359

1. 2019年度第3四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(受注高・受注残高)

(億円)

	受注高			受注残高		
	'18年度3Q	'19年度3Q	増減	'18年度末	'19年度3Q	増減
資源・エネルギー・環境	2,167	2,437	269	5,231	5,546	315
社会基盤・海洋	832	1,034	201	1,916	1,832	▲ 84
産業システム・汎用機械	3,512	3,286	▲ 225	1,803	2,154	350
航空・宇宙・防衛	2,549	1,853	▲ 695	5,626	4,419	▲ 1,206
報告セグメント計	9,061	8,611	▲ 449	14,578	13,952	▲ 625
その他	616	492	▲ 124	204	290	85
調整額	▲ 333	▲ 337	▲ 4	-	-	-
合計	9,345	8,767	▲ 577	14,782	14,243	▲ 539

海外受注高・受注残高	3,859	3,927	68	5,798	5,074	▲ 723
海外受注高・受注残高比率	41%	45%	4%	39%	36%	▲ 3%

1. 2019年度第3四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益)

(億円)

	売上高			営業利益		
	'18年度3Q	'19年度3Q	増減	'18年度3Q	'19年度3Q	増減
資源・エネルギー・環境	2,716	2,224	▲ 491	40	▲ 17	▲ 58
社会基盤・海洋	949	1,027	77	76	80	3
産業システム・汎用機械	3,141	2,882	▲ 258	132	51	▲ 81
航空・宇宙・防衛	3,493	2,946	▲ 547	358	204	▲ 154
報告セグメント計	10,300	9,081	▲ 1,219	608	318	▲ 289
その他	471	449	▲ 22	11	15	4
調整額	▲ 299	▲ 310	▲ 10	▲ 52	▲ 61	▲ 8
合計	10,472	9,220	▲ 1,251	566	272	▲ 294

海外売上高	5,476	4,597	▲ 879
海外売上高比率	52%	50%	▲ 2%

1. 2019年度第3四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(営業利益の前期比増減要因)

(億円)

	売上高の 増減	工事採算 の変動	為替の変動	販管費の 変 動	合 計
資源・エネルギー・環境	▲ 70	▲ 4	▲ 2	18	▲ 58
社会基盤・海洋	9	4	▲ 1	▲ 9	3
産業システム・汎用機械	▲ 101	▲ 13		33	▲ 81
航空・宇宙・防衛	▲ 71	▲ 79	▲ 11	7	▲ 154
報告セグメント計	▲ 233	▲ 92	▲ 14	49	▲ 289
そ の 他				4	4
調 整 額		23		▲ 31	▲ 8
合 計	▲ 233	▲ 69	▲ 14	22	▲ 294

報告セグメント別・要因別の数値の合計と合計欄の数値は四捨五入の関係で一致しない場合があります。

1. 2019年度第3四半期 連結決算 営業外損益

(億円)

	'18年度3Q	'19年度3Q	増 減
金融収支	▲ 6	▲ 15	▲ 9
持分法による投資損益	67	▲ 92	▲ 159
為替差損益	1	▲ 14	▲ 15
その他	▲ 53	▲ 64	▲ 10
営業外損益	9	▲ 186	▲ 195

期末日レートの変動(米ドル) '18年度3Q +4.76円 (期首106.24円→3Q末111.00円)
'19年度3Q ▲1.43円 (期首110.99円→3Q末109.56円)

ジャパン マリンユナイテッド株式会社の業績悪化について

当社の関連会社であるジャパン マリンユナイテッド株式会社(以下、「JMU」)にて、大幅な業績悪化となり、持分法投資損失を計上しています。

<業績悪化の要因>

- 塗装・溶接不具合などの技術トラブルによる建造工程の混乱
- 為替円高の影響
- 市況の悪化による操業不足
- 舞鶴事業所の艦艇修理事業への特化に伴う減損の計上
- 繰延税金資産の取崩等

<今後の対応>

海外勢に対抗する強靱な建造体制の構築を図るため、抜本的な構造改革の実行スピードを加速させます。

- 商船の経営資源の集中
- 固定費削減・競争力強化
- JMUと今治造船株式会社との将来の生産体制の効率化

1. 2019年度第3四半期 連結決算 特別損益

(億円)

	'18年度3Q	'19年度3Q	増 減
固定資産売却益	—	43	43
保 險 差 益	—	11	11
関係会社株式売却益	42	—	▲ 42
事 業 譲 渡 益	11	—	▲ 11
特 別 利 益	53	54	1
投資有価証券評価損	—	▲ 46	▲ 46
減 損 損 失	▲ 16	▲ 1	14
特 別 損 失	▲ 16	▲ 47	▲ 31
特 別 損 益	37	6	▲ 30

1. 2019年度第3四半期 連結決算 連結貸借対照表

(億円)

	'18年度末	'19年度3Q末	増減
資産合計	16,645	17,030	385
(うち 売上債権)	(3,776)	(3,434)	(▲ 342)
(うち 棚卸資産)	(4,419)	(5,145)	(726)
(うち 投資有価証券)	(1,179)	(1,018)	(▲ 161)
負債合計	12,828	13,481	653
(うち 仕入債務)	(2,900)	(2,598)	(▲ 302)
(うち 前受金)	(1,575)	(1,626)	(51)
(うち 有利子負債残高)	(3,550)	(4,740)	(1,189)
純資産合計	3,816	3,548	▲ 268
株主資本	3,434	3,144	▲ 290
その他の包括利益累計額	56	49	▲ 7
非支配株主持分等	325	354	29
負債・純資産合計	16,645	17,030	385
D/Eレシオ(※)	0.93倍	1.34倍	0.41倍
自己資本比率	21.0%	18.8%	▲ 2.2%

有利子負債残高には、リース債務残高('18年度末:174億円, '19年度3Q末:261億円)を含んでいます。

(※) D/Eレシオ=有利子負債/純資産

(1) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	'18年度3Q	'19年度3Q	増 減
営業キャッシュ・フロー	▲ 660	▲ 674	▲ 13
投資キャッシュ・フロー	▲ 616	▲ 490	125
フリー・キャッシュ・フロー	▲ 1,277	▲ 1,164	112
財務キャッシュ・フロー	1,046	800	▲ 246

(2) 研究開発費・設備投資額・減価償却費

(億円)

	'18年度3Q	'19年度3Q
研究開発費	237	238
設備投資額	531	524
減価償却費	353	388

設備投資額, 減価償却費は, 有形固定資産およびソフトウェアに係る金額を示しています。
(2018年度まで有形固定資産に係る金額で開示していたため, '18年度3Qの数値を変更しています)

(3) 海外売上高

(億円)

	'18年度3Q	'19年度3Q
ア ジ ア	1,120	900
中 国	908	693
北 米	2,501	2,388
中 南 米	95	67
欧 州	756	504
そ の 他	93	42
合 計	5,476	4,597
海外売上高比率	52%	50%

2. 2019年度 連結業績見通し

2. 2019年度 連結業績見通し 通期業績見通し

前提為替レート 米ドル **105円**(前回見通し公表時 **105円**)
 (第4四半期) ユーロ **120円**(前回見通し公表時 **120円**)

(億円)

	前回見通し※ ('19年度通期) A	今回見通し ('19年度通期) B	前期実績 ('18年度通期)	増 減 B-A
受 注 高	14,000	14,000	13,992	0
売 上 高	14,000	14,000	14,834	0
営 業 利 益	650	600	824	▲ 50
経 常 利 益	430	340	657	▲ 90
親会社株主に帰属する 当期純利益	200	160	398	▲ 40

※前回見通しは、2019年11月1日公表の業績予想数値です。

(参考)為替感応度(為替相場の1円の変動により、営業利益に与える影響額)

米ドル 2億円 ユーロ 0億円

2. 2019年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(受注高通期見通し)

(億円)

	前回見通し ('19年度通期)	今回見通し ('19年度通期)	増 減
資源・エネルギー・環境	3,300	3,400	100
社会基盤・海洋	1,800	1,800	0
産業システム・汎用機械	4,400	4,400	0
航空・宇宙・防衛	4,200	4,200	0
報告セグメント計	13,700	13,800	100
そ の 他	800	700	▲ 100
調 整 額	▲ 500	▲ 500	0
合 計	14,000	14,000	0

2. 2019年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益通期見通し)

(億円)

	前回見通し ('19年度通期)		今回見通し ('19年度通期)		増 減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
資源・エネルギー・環境	3,400	130	3,400	60	0	▲ 70
社会基盤・海洋	1,700	150	1,700	150	0	0
産業システム・汎用機械	4,200	170	4,200	160	0	▲ 10
航空・宇宙・防衛	4,400	270	4,400	270	0	0
報告セグメント計	13,700	720	13,700	640	0	▲ 80
そ の 他	800	20	800	20	0	0
調 整 額	▲ 500	▲ 90	▲ 500	▲ 60	0	30
合 計	14,000	650	14,000	600	0	▲ 50

2. 2019年度 連結業績見通し

報告セグメント別内訳(前回見通しからの営業利益の増減要因)

(億円)

	売上高の 増減	工事採算 の変動	為替の変動	販管費の 変動	合計
資源・エネルギー・環境	▲ 40	▲ 30			▲ 70
社会基盤・海洋					0
産業システム・汎用機械	▲ 10				▲ 10
航空・宇宙・防衛	▲ 20		20		0
報告セグメント計	▲ 70	▲ 30	20	0	▲ 80
その他					0
調整額		30			30
合計	▲ 70	0	20	0	▲ 50

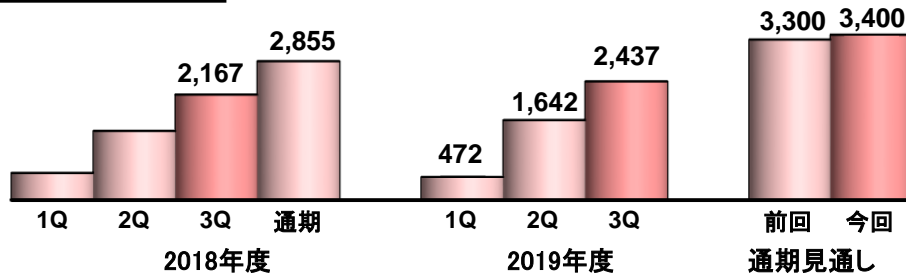
3. 報告セグメント別の概況

3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

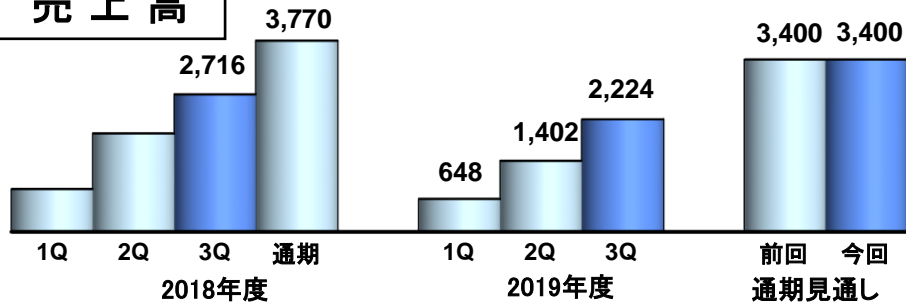
(億円/各期の金額は累計)

前回: 2019年11月1日公表の業績予想数値

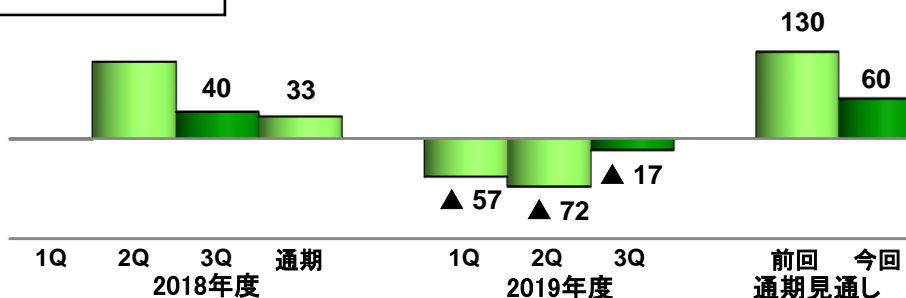
受注高



売上高



営業利益



主要事業: 原動機, ボイラ, プラント, 原子力

<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

プラントで減少したものの、ボイラで大型案件を受注したことで、増加しました。

【売上高】

ボイラで工事進捗遅れによる減収、プラントで前期に大型プロジェクトが進捗した反動で減収となりました。

【営業利益】

ボイラの減収の影響により、減益となりました。

<通期見通し 対前回見通し 増減内訳>

受注高は全体で若干増加する見込みですが、売上高は変更ありません。

営業利益は、複数の案件での売上計上時期ずれなどにより、減益となる見込みです。

3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円)

	受注高		売上高							
	'18年度 通期	'19年度 通期 (見通し)	'18年度			通期	'19年度			通期 (見通し)
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	3Q累計	
原 動 機	828	900	179	422	632	934	179	360	534	900
ボ イ ラ	797	960	270	697	945	1,215	168	448	702	1,000
プ ラ ン ト	564	450	230	458	595	801	138	266	392	580
原 子 力	305	300	50	120	167	331	48	89	135	300

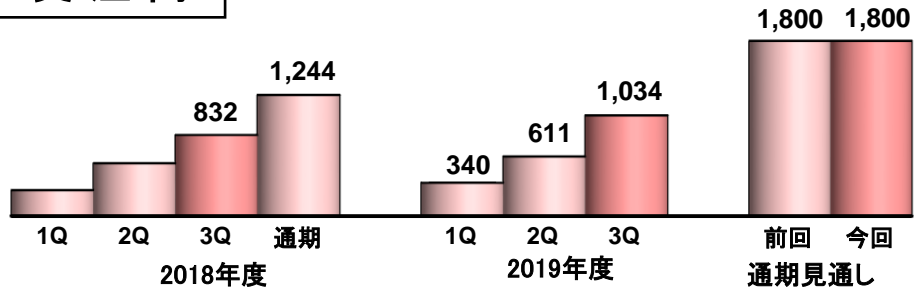
3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円/各期の金額は累計)

前回: 2019年11月1日公表の業績予想数値

主要事業: 橋梁・水門, 交通システム, シールドシステム,
コンクリート建材, 都市開発

受注高



<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

シールドシステム, 交通システムで増加しました。

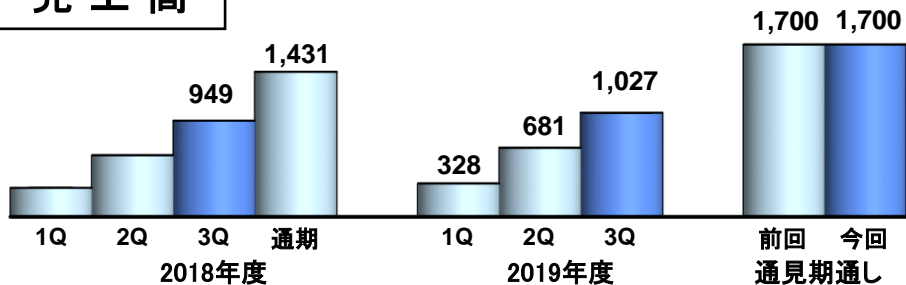
【売上高】

橋梁・水門で増収となりました。

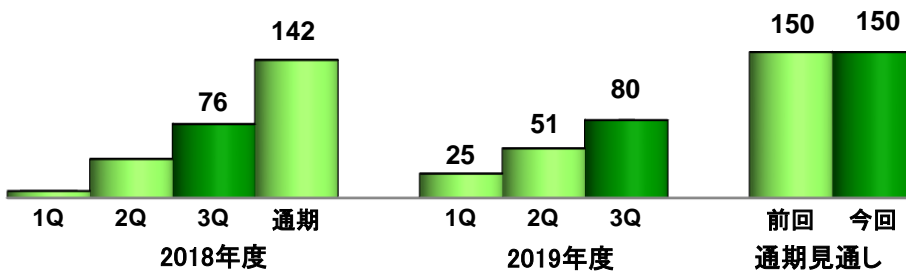
【営業利益】

橋梁・水門や交通システムで増益となりました。

売上高



営業利益



<通期見直し 対前回見直し 増減内訳>

受注高・売上高・営業利益いずれも変更ありません。

3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円)

	受注高		売上高							
	'18年度 通期	'19年度 通期 (見通し)	'18年度			通期	'19年度			通期 (見通し)
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	3Q累計	
橋 梁 ・ 水 門	650	820	152	301	462	720	192	382	575	920
シールドシステム	144	250	40	97	146	185	46	97	120	200
都 市 開 発	163	160	37	79	119	163	39	79	118	170

「都市開発」の豊洲地区関連情報は、P36、P37の〈参考資料〉をご覧ください。

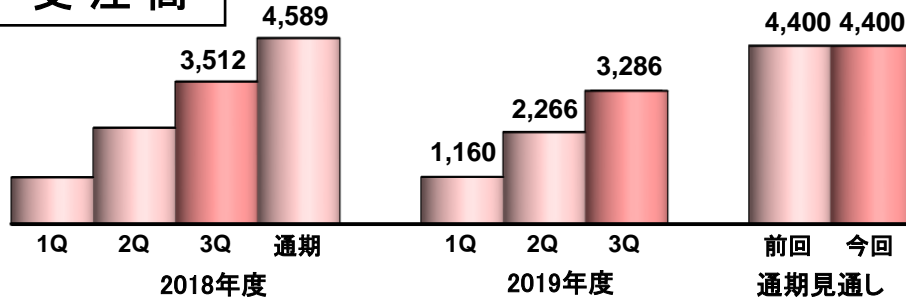
3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

(億円/各期の金額は累計)

前回: 2019年11月1日公表の業績予想数値

主要事業: 車両過給機, パーキング, 回転機械, 熱・表面処理,
運搬機械, 物流・産業システム, 農機

受注高

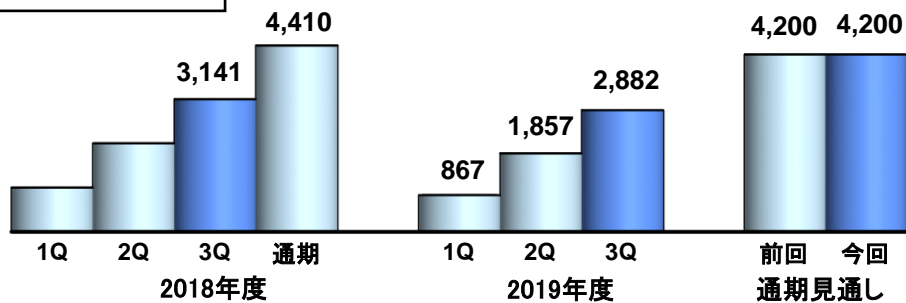


<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

運搬機械は大型案件を受注したことで増加したものの、車両過給機や熱・表面処理が減少したことで、減少となりました。

売上高



【売上高】

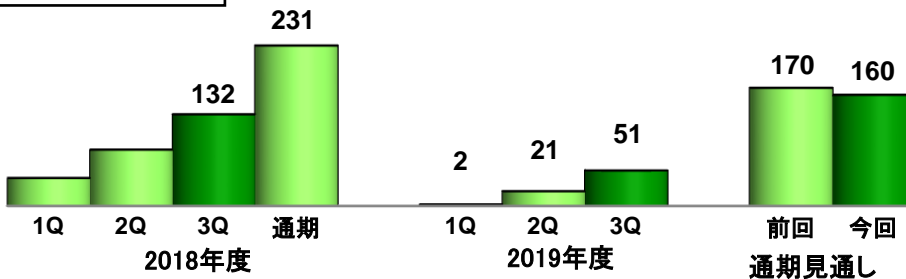
車両過給機で減収となったほか、小型原動機事業を譲渡した影響により、減収となりました。

<車両過給機の販売台数>

(万台)

販売年度	3Q累計	通期
2018年度	514	676
2019年度	464	620

営業利益



【営業利益】

車両過給機や熱・表面処理で減益となりました。

<通期見通し 対前回見通し 増減内訳>

受注高・売上高は変更ありません。

営業利益は、回転機械、運搬機械などで減益となる見込みです。

3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

(億円)

	受注高		売上高							
	'18年度 通期	'19年度 通期 (見通し)	'18年度			通期	'19年度			通期 (見通し)
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	3Q累計	
車両過給機	1,902	1,570	516	993	1,436	1,895	387	767	1,188	1,580
パーキング	525	540	77	179	294	497	100	220	339	530
回転機械	513	530	106	215	327	495	104	211	335	510
熱・表面処理	413	360	111	210	311	416	98	197	291	390
運搬機械	332	600	50	79	137	239	37	92	177	300

「車両過給機」の詳細は、P35の<参考資料>をご覧ください。

「車両過給機」の'18年度3Q累計の数値は、4Qに実施した内部取引調整を3Qに織り込んで表示しています。

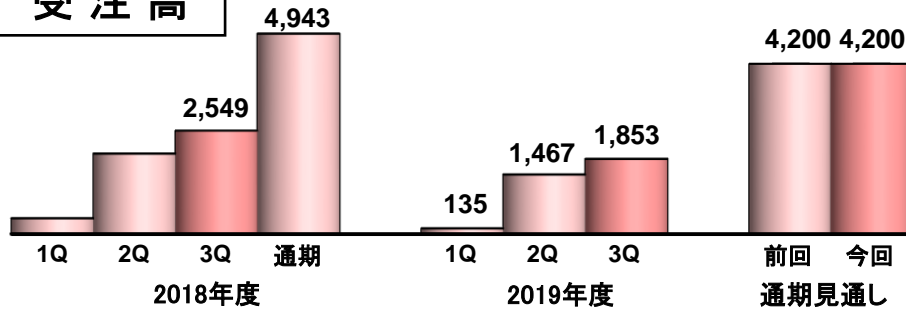
3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円/各期の金額は累計)

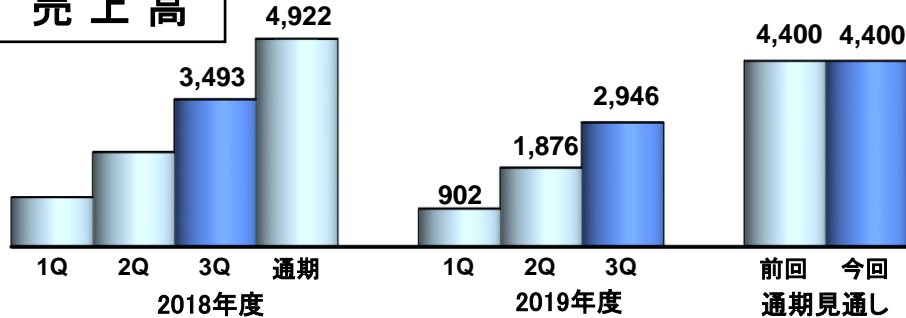
前回: 2019年11月1日公表の業績予想数値

主要事業: 航空エンジン, ロケットシステム・宇宙利用, 防衛機器システム

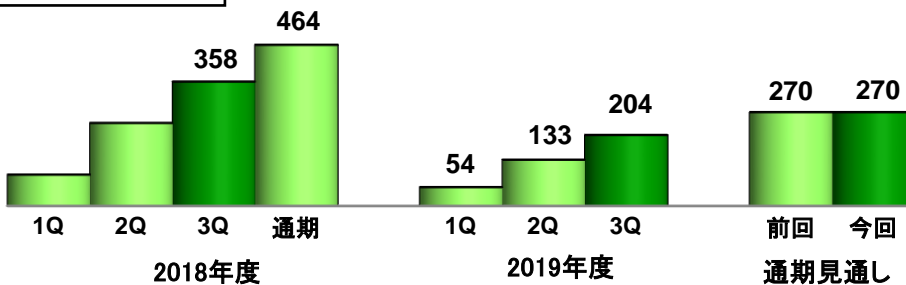
受注高



売上高



営業利益



<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

防衛省向け航空エンジン, 民間向け航空エンジン, ロケットシステム・宇宙利用で減少しました。

【売上高】

防衛省向け航空エンジン, 民間向け航空エンジンで減収となりました。

<民間向け航空エンジンの販売台数>

(台)

販売年度	3Q累計	通期
2018年度	1,183	1,521
2019年度	1,061	1,450

【営業利益】

民間向け航空エンジンで, 整備事業の検査プロセス厳格化に伴う減収や, プログラム費用の追加負担の影響等により, 減益となりました。

<通期見通し 対前回見通し 増減内訳>

受注高・売上高・営業利益いずれも変更ありません。

3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円)

	受注高		売上高							
	'18年度 通期	'19年度 通期 (見通し)	'18年度			通期	'19年度			通期 (見通し)
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	3Q累計	
民間向け 航空エンジン	3,348	3,000	731	1,525	2,432	3,185	651	1,315	2,081	2,800

「民間向け航空エンジン」の詳細は、P34の<参考資料>をご覧ください。

< 参考資料 >

- ・業績の推移
- ・海外大型案件の進捗状況
- ・当第3四半期のトピックス
- ・航空エンジン
- ・車両過給機
- ・都市開発

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019/3Q	2019年度 (見通し)
売上高	15,393億円	14,683億円	15,903億円	14,834億円	9,220億円	14,000億円
営業利益率 営業利益	1.4% 220億円	3.2% 473億円	4.5% 722億円	5.6% 824億円	3.0% 272億円	4.3% 600億円
経常利益	97億円	220億円	214億円	657億円	86億円	340億円
親会社株主に 帰属する当期純利益	15億円	52億円	82億円	398億円	▲17億円	160億円
ROE (※1)	0.5%	1.6%	2.6%	11.8%	—	—
ROIC (※2)	2.3%	5.0%	7.7%	8.7%	—	—
D/Eレシオ(※3)	1.12倍	1.10倍	0.92倍	0.93倍	1.34倍	—
配当	3円/株 (中間3円, 期末0円)	0円/株	中間3円/株 期末30円/株 (期末は、株式併合後)	70円/株 (中間30円, 期末40円)	中間30円/株	70円/株 (中間30円, 期末40円)
為替レート	118.27円/\$	108.27円/\$	111.00円/\$	111.09円/\$	108.95円/\$	—

※1：ROE(自己資本利益率)＝親会社株主に帰属する当期純利益／(前期末・当期末平均 自己資本)

※2：ROIC(投下資本利益率)＝税引後(営業利益＋受取利息・配当金)／(自己資本＋有利子負債)

※3：D/Eレシオ＝有利子負債／純資産

エルバ天然ガス液化設備



完成予想図



2019年12月末現在

<進捗状況>

2019年12月末現在で、液化モジュール(MMLS) No.1, 3, 4 は商業運転, MMLS#2は運転中(2020年1月商業運転開始済), MMLS No.5~8は試運転調整, MMLS No.9, 10は据付工事を進行中。進捗は設計:100%, 調達:100%, 据付:99.4%, 試運転:77.7%, プロジェクト全体:98.0%。

<主要工程>

2016年3月: 契約締結
 2016年11月: FERC (米国連邦エネルギー規制委員会) の建設許可承認 (仮設工事着工承認)
 2017年2月: No.1トレイン液化モジュール (MMLS) 現着開始
 2019年9月: No.1トレイン 商業運転開始
 2020年6月: プラント全体引き渡し

<プロジェクト概要>

- ・契約内容:エルバ島 天然ガス液化設備のEPC契約
- ・建設地:米国ジョージア州 チャタム郡 サバンナ エルバ島
- ・担当範囲:年産約250万トンの液化設備の設計 (液化モジュールはお客さま支給), 建設, 試運転

MMLS: Movable Modular Liquefaction System

液化トレインはプラント全体で10トレインあり, 1トレインは79モジュールで構成

ジマイーストパワー石炭火力発電所



2019年12月末現在



<進捗状況>

2019年12月末現在, #1ボイラ引渡完了(2019年8月21日), #2ボイラ引渡完了(2019年12月26日)。ボイラ部分の進捗は設計:100%, 調達:100%, 据付:100%, 試運転:100%, プロジェクト全体:100%。

<主要工程>

2014年 8月: 契約締結	2018年10月: 火入れ(#1)
2017年 1月: 立柱(#1)	2019年 4月: 火入れ(#2)
2017年 7月: 立柱(#2)	2019年 8月: 商業運転開始(#1)
2018年 4月: 水圧試験(#1)	2019年12月: 商業運転開始(#2)
2018年11月: 水圧試験(#2)	

<プロジェクト概要>

- ・契約内容:IPP事業者のJimah East Power社向け 石炭焚き発電所のフルターンキー契約
- ・建設地:マレーシア, ネグリスンビラン州ジマ地区
- ・担当範囲:超々臨界圧石炭火力発電所ボイラ (1000MW×2基)の設計・調達・建設及び試運転

エルバ天然ガス液化設備 <2020年1月末 進捗状況>

MMLS No.	#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7	#8	#9	#10
機器据付完了	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Mechanical Completion	○	○	○	○	○	○	○	○		
試運転開始 (進捗%)	○	○	○	○	○ (90.0%)	○ (81.2%)	○ (66.0%)	○ (47.0%)	○ (14.4%)	○ (12.5%)
商業運転開始	○	○	○	○						(予定 2020年6月)

発電用ボイラの木質バイオマス専焼化工事を受注

IHIは、鈴川エネルギーセンター株式会社殿(以下、同社)から、同社火力発電所の木質バイオマス専焼化工事を受注しました。本件は、国内初のPC焚ボイラでの木質バイオマス専焼化工事で、営業運転開始は2022年春の予定です。

IHIグループは、今後も発電設備のさらなる高効率化、CO₂回収・貯留・有価物への転化の開発などを含め、資源・エネルギー・環境領域における積極的な事業展開を通じて、“脱CO₂・循環型社会”の実現に貢献していきます。



<鈴川エネルギーセンター株式会社殿 火力発電所 外観>

駐車場内における自動運転・自動駐車および関連サービスの開発



<写真上:自動駐車実験,写真下:ドローン着陸ポート>

IHI運搬機械株式会社(以下、IUK)は、駐車場内での自動運転・自動駐車等技術の確立および関連サービスの開発に取り組んでおり、国内で初めて以下を実現させました。

- 自走式駐車場や機械式駐車場の閉鎖空間における自動運転／自動駐車技術の確立、機械式駐車場では場内に利用者が立ち入らない自動バレー駐車(※車両の駐車や出庫を代行するサービス)を実現。
- ブルーイノベーション株式会社とドローン着陸ポートを共同開発。ドローンから自動運転モビリティへの荷物の無人受け渡しを実現。

無人受け渡しの工程では、IUKが機械式駐車場の開発・製造で培った搬送技術が活かされています。

IUKでは、今後も駐車場への多様なニーズに対し最適なソリューションを提供すべく取り組んでまいります。

(1) 民間向け航空エンジン: 連結売上高推移

(億円)

	実績						見通し		
	'13	'14	'15	'16	'17	'18年度		'19年度	
						3Q累計	通期	3Q累計	通期
売上高	2,260	2,670	2,991	2,915	2,810	2,432	3,185	2,081	2,800

(2) 民間向け航空エンジン: 累計販売台数

(台)

	実績(累計)									主要搭載機
	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19/3Q	
V2500	4,980	5,468	5,969	6,469	6,896	7,236	7,508	7,688	7,724	エアバス A319/320/321
GE90	1,399	1,589	1,806	2,039	2,257	2,457	2,617	2,715	2,794	ボーイング B777
CF34	3,242	3,548	3,820	4,156	4,471	4,821	5,085	5,331	5,532	リージョナルジェット (70~110席級)
GEnx	118	259	468	751	1,035	1,295	1,542	1,826	2,050	ボーイング B787/B747-8
PW1100G					16	148	398	1,058	1,514	エアバス A320Neo
Passport20							13	66	131	ボンバルディア社 Global7500
合計	9,739	10,864	12,063	13,415	14,675	15,957	17,163	18,684	19,745	

(注)販売台数は、機体メーカーに引き渡した台数であり、工場出荷台数とは異なります。

<地域別連結売上高推移>

(億円)

	実績										見通し
	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18年度		'19年度		
							3Q累計	通期	3Q累計	通期	
日 本	339	353	375	346	389	398	333	446	292	390	
ア ジ ア	248	298	275	216	158	117	83	110	78	110	
中 国	181	234	243	249	485	719	483	631	464	580	
北 米	13	16	18	24	33	84	86	116	81	120	
中 南 米	0	0	7	34	61	74	58	75	49	70	
欧 州	432	602	756	743	617	811	390	513	220	310	
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合 計	1,216	1,507	1,677	1,616	1,746	2,205	1,436	1,895	1,188	1,580	

'18年度3Q累計のアジアの数値は、4Qに実施した内部取引調整を3Qに織り込んで表示しています。

(1) 豊洲地区 賃貸収入の実績推移

(億円)

	実績								見通し	
	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18年度		'19年度	
							3Q累計	通期	3Q累計	通期
賃貸収入	92	91	93	101	93	92	70	93	71	94

(2) 豊洲地区 賃貸収入, 賃貸費用実績(当期)

(億円)

	賃貸収入	賃貸費用		差額
		減価償却費	その他	
'19年度3Q	71	29	21	20

豊洲1~3丁目地区 開発マップ

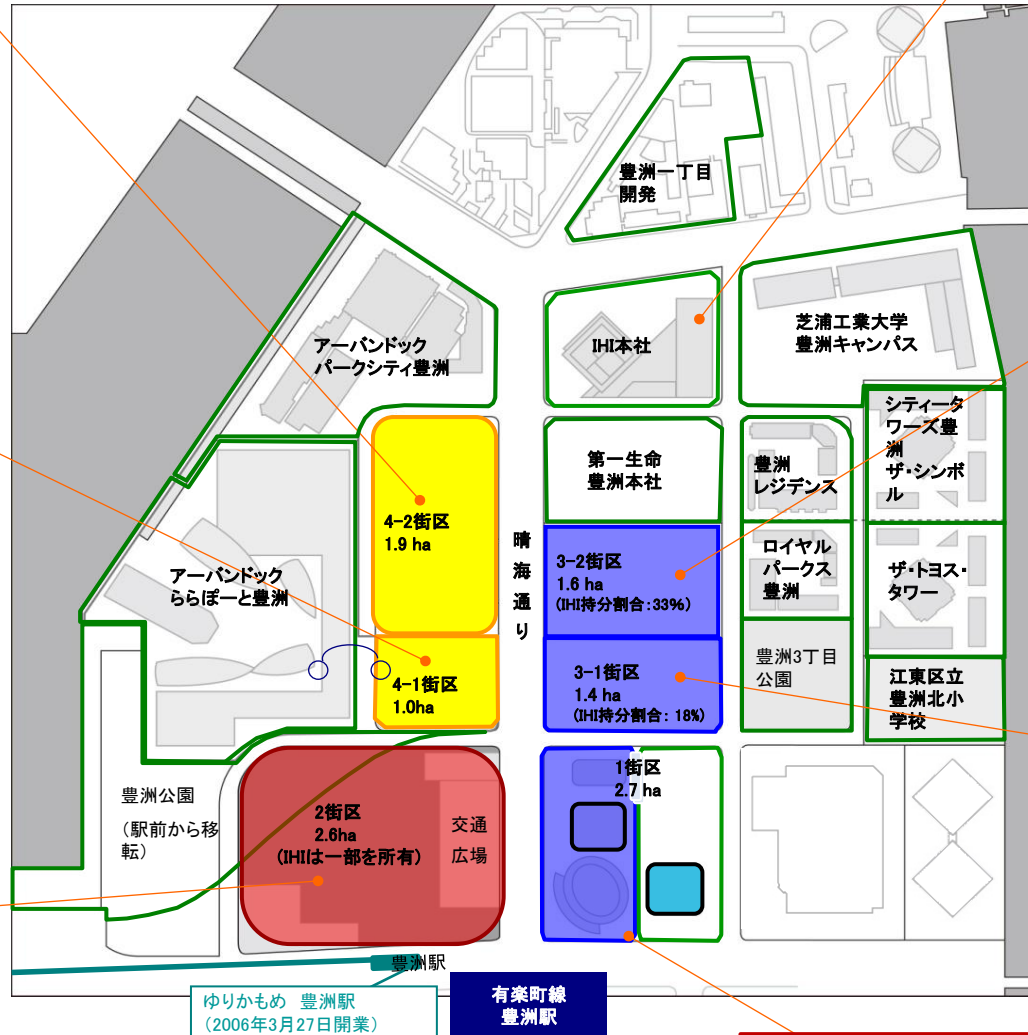
幼稚園、保育園、カフェ、結婚式場
敷地面積：19,492㎡
2010年3月～2011年2月竣工



アーバンドック ららぽーと豊洲ANNEX (三井不動産)
地上5F, 高さ約25m, 延床面積：24,721㎡
2006年10月開業



複合ビルAC棟 (IHI, 三井不動産)
地上36F, 高さ178m, 延床面積約185,000㎡
2020年4月竣工予定

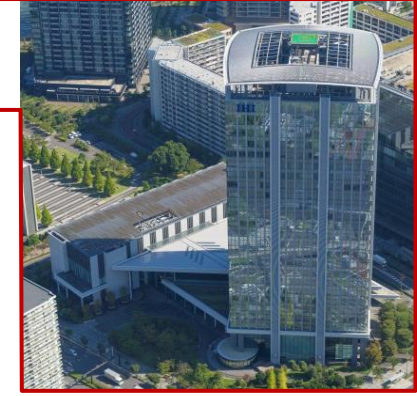


シビックセンター棟：2015年9月開業
消防署棟：2016年6月竣工

IHI所有地	約5ha
--------	------

- 建物賃貸
- 土地賃貸
- 建物賃貸(借地)
- 第一種市街地再開発事業 ※1
- 売却・寄付・交換済

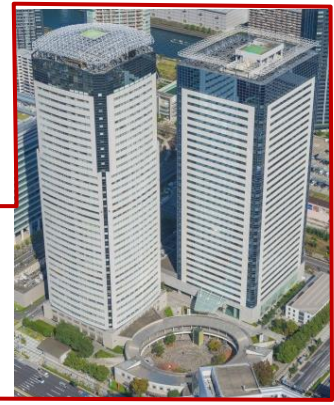
豊洲IHIビル
地上25F, 高さ：約125m, 延床面積：97,617㎡
2006年2月竣工



豊洲フォレシア (IHI, 三菱地所(SPC))
地上16F, 高さ：約75m, 延床面積：101,503㎡
2014年7月竣工



豊洲フロント (IHI, 三菱地所(SPC), 三菱UFJ信託銀行)
地上15F, 高さ：約75m, 延床面積：106,861㎡
2010年8月竣工



豊洲センタービル
地上37F, 高さ：約165m, 延床面積：100,069㎡
1992年10月竣工

豊洲センタービルアネックス
地上33F, 高さ：約150m, 延床面積：105,448㎡
2006年8月竣工

※1 都市再開発法で定める手法の一つ

IHI

Realize your dreams

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際に業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。実際の業績に与える重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く政治、経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レートなどがあります。